

ニッチ分野に的を絞り開発した自社製品。 「入れる・揃える・巻く・拡げる」技術で 世界に挑む。



株式会社三橋製作所

代表取締役 三橋 宏氏

▶ interviewer

頭取 大道 良夫

九条支店長 成宮 康宏

大手メーカーの協力会社としての安定期から自社製品開発に注力し、自己革新を成し遂げた三橋製作所。即席麺製造現場での包装関連装置やコンバーティング関連機器でシェアを広げ、グローバル市場を目指す。

事業の先を見つめて 「自社製品での独り立ち」へ

大道 ●今日は社員食堂で昼食を一緒にさせていただき、ありがとうございます。出来たてで温かく、とてもおいしかったです。一時閉鎖されていたのをこの4月に再オープンしたと伺いましたが、社員の皆さんがテーブルを囲む食堂を、三橋社長はとても大切な場所と考えてこられたのですね。

三橋 ■毎日の昼食の場であるとともに、新入社員歓迎会や懇親会など社員交流の場として活用してきましたが、11年前にやむなく閉鎖しました。当社は京都の大手精密機器メーカーの協力企業として歩んできましたが、自社製品を開発して独り立ちする道へと大きく舵を切った頃でした。第二の創業を自社製品だけでとの意気込みでしたが、業務の変更に対応できず去って行った社員も少なくありませんでした。当然、食堂の維持もできなくなりました。

大道 ●社員食堂の変遷にも、そんな転換期のドラマが秘められているんですね。三橋製作所さんは現在、「入れる」「揃える」「巻く」「拡げる」をキーワードに包装関連、コンバーティング関連の装置を手掛けていらっしゃいます。

三橋 ■包装関連装置のほとんどが即席麺、カップ麺製造現場向けの省力化装置。主力の小袋を入れるパウチ投入機のほか、箱詰整列機、カード投入機、巻取機など、どれも「入れる」ための機械です。

大道 ●先ほど工場で見ましたパウチ投入機は、粉末液体スープや調味油、乾燥具

材等が入った小袋を1袋ずつ即席麺の上に投入していく機械ですね。

即席麺・カップ麺製造現場で高シェア 多彩で多機能な「入れる」装置

三橋 ■スープや乾燥具材の小袋は、一列に長く連なった。連包の状態で即席麺メーカーに納品されます。昔は小袋を手作業で一つずつ切り分け、麺の上に置いていました。単調で効率も良くないことから「自動化できないか」と大手の即席麺メーカーさんから課題をいただき、1971年に当社独自のパウチ投入機を開発しました。

大道 ●そんなに早くから独自の製品開発を手掛けていたのですか？

三橋 ■当社は1944年に創業し、それから5年ほど後に大手精密機器メーカーと出会い、医療用X線装置などの製作を請

け負うことで経営を安定軌道に乗せました。その大手メーカーの流儀は外注先に一切を任せること。機械加工が本業だった当社にも電機製品を組み立てや部材の購入、時には設計までこなせる体制が求められ、そのおかげでものづくり企業としての力を蓄えることができました。創業者で父の三橋要先代社長にはもともと強いメーカー志向があり、協力会社として安定していた時代から製品開発チームを育成していました。だからパウチ投入機が開発できたのです。連包を切り分けながら、機械アームの吸着で麺に投入するパウチ自動投入機を国内で手掛けているのは当社ともう1社ありますが、即席麺市場で当社は6割のシェアを占めています。

成宮 ●即席麺以外でも、お菓子の袋などに乾燥剤や鮮度保持剤を入れる用途にも使われていますね。

三橋 ■他にも生菓子を個装する際に乗せるシート状の台紙投入でも使われています。カード等を1枚ずつ定位置に自動投入するもので、医薬品の効能等を記した能書（のうがき）を封入するといった用途も増えています。指定された個数をきっちりカウントして箱へ入れる箱詰整列機、連包状の小袋を折りたたんで箱詰めるパウチローダー、連包を巻き取るパウチワインダーなどパウチ類の輸送業務を効率化する



「入れる・揃える・巻く・拡げる」をキーワードにした製品群



カード投入機CD-861型(左)と、両面テープ貼り付け装置SMFシリーズ(右)



株式会社三橋製作所 代表取締役

三橋 宏氏
(みつはしひろし)

1946年生まれ。70年、早稲田大学商学部を卒業、株式会社三橋製作所に入社。77年、取締役に就任。83年、常務取締役に就任。88年、代表取締役に就任。

企業理念

会社の目的

会社に関わる人々が、豊かな生活を得、誇りと希望をもち、仕事を通じて社会に貢献し、適正な利潤を得て、発展して行ける企業で、あり続ける事。

経営理念

付き合っただけで良かったなと喜んでいただける企業づくり。
使って良かったなと喜んでいただける商品づくり。
勤めていて良かったなと喜んでいただける企業風土づくり。

会社概要

株式会社三橋製作所

- 資本金/1億円
- 従業員数/100名
- 事業内容/パウチ投入機・カード投入機等の包装関連装置、LPC・エアージャクトしわ取りロール等のコンバーティング関連機器の製造・販売
- 本社所在地/京都市右京区山ノ内赤山町1
- URL/http://www.mitsuhashi-corp.co.jp/

プロフィール

- 1944年 精密機械部品の生産を開始し創業
- 1946年 株式会社三橋製作所に社名変更
- 1953年 繊維業界の自動省力化分野に進出
- 1963年 LPCを開発
- 1971年 食品業界に進出、パウチ自動投入機を開発
- 1977年 連包パウチ自動投入機を開発
- 1979年 系列会社サンブリッジ工業株式会社を創業
- 1996年 ニッケル水素電池用巻取機を開発
- 2005年 しわ取りロールの製作・販売を開始
- 2014年 創立70周年を迎える



用途に合わせてカスタマイズされる「連包パウチ投入機」の組立ライン。左から成宮支店長、三橋宏社長、大道頭取

る機械も揃え、包装関連装置で売り上げの約6割を占めています。

ニッチ分野で力を発揮する 現場対応の技術力

大道●即席麺の製造工程では、御社の機械が担う「入れる」の前に粉末スープ類の充填工程、後に包装工程。この二つの工程には大手メーカーの機械や装置が導入されています。御社の機械は全て、その隙間を狙ったもの。巧みなニッチ戦略ですね。

三橋■父が「自社製品での独り立ち」を目指そうと決意した時から、大手メーカーが

に吊るして販売するいわゆる「ハンガー商品」の製造工程でも採用されており、即席麺以外の現場でもビジネスチャンスがあると感じています。蛇行制御装置も海外展開を強化していますが、中国では欧州メーカーの攻勢が激しく、さらなるグローバル対応が必要です。

大道●「第二創業」として、それまで事業の中心だった大手精密機器の受託業務から完全撤退されました。相当の覚悟が要ったことでしょう。

三橋■90年代後半から大手精密機器メーカーの仕事が減り、コストダウンの要請もあって、選択の余地はありませんでした。しかし、受託業務を通じてメーカーとしての総合力を着々と蓄え、早期から製

手掛けないニッチ分野の的を絞ってききました。当社の技術力で対応でき、大企業と競合せず、しかも自社で営業フォローができる。その範囲こそ私どもが考えるニッチです。「入れる」と同様に、その考えから生まれたのがコンバーティング関連機器でした。

大道●コンバーティングとはフィルムや紙、不織布などの薄い基材に付加価値を与えるものづくりの総称ですから、それらの生産効率化に「揃える」「巻く」「拡げる」で貢献する装置を、コンバーティング関連機器と呼んでおられるんですね。

「揃える」「巻く」「拡げる」 コンバーティング関連装置

三橋■この分野での主力製品は、LPC（蛇行制御装置）、エアージャクト、しわ取りロールです。帯状の薄い基材は巻かれた状態から巻き出して加工ラインに流すと、途中でズレが生じ、再び巻き取った後のエッジ（端）が不揃いになります。そのズレを光や超音波で検出し、蛇行しないよう制御するガイドシステムがLPCです。

成宮●蛇行を制御するシステムではEPCと呼ばれるものもありますね。

三橋■そこらは大手企業が開発した蛇行検出システムで、基材のエッジを基準に蛇行を検出する方式です。検出精度では、基材上のラインを基準にする当社の方式

品開発に注力したことは、現在に至る大きな原動力になりました。

若者の就労支援への思いも込め 11年ぶりに社員食堂を再開

大道●今春、念願の社員食堂を再開する日を迎えられました。この11年間の、新生活への道を抜け、前途に太陽が注ぎ込むようです。

三橋■食堂が復活でき、苦労を共にした従業員、支えてくださった皆さまに心から感謝します。引きこもりの若者の就労支援をされている京都の一般社団法人ムーンライトさんとのご縁もあって、厨房では長期離職や引きこもりからの自立就労を目指している方に働いてもらっています。



若者の就労を支援する社員食堂「川のとぎ」で

が高いと自負しています。反物用に開発した技術を基礎にしながら、時代ニーズに応じて印刷紙用やゴム用、フィルム用と用途を広げました。現在の高機能フィルムはまだまだ伸びていく分野なので、今後の販売にも期待しています。

大道●蛇行制御装置が「揃える」の代表格なら、「巻く」の代表格はフィルムや紙のロール着脱をとっても楽にするエアージャクトですね。

三橋■内部のゴムチューブを空気圧で膨らませると、ツメが突き出てロールをクランプし軸芯をロックします。「巻く」分野では他にもゴムチューブを使わないメカニカルシヤフトやエアージャクトも用意しています。また、加工中のフィルム等に生じるしわを「拡げる」のがしわ取りロール。このように「揃える」「巻く」「拡げる」をトータルで製造しているのは当社だけです。高性能フィルムや不織布など高価な基材を使う分野で材料ロスが少なくなったと評価いただいています。

即席麺の市場は中国から 東南アジアへ、全世界へ

大道●海外での売上比率が伸びていますね。

三橋■現在、全製品の35%が海外向けで、包装関連装置では50%になっています。世

す。社名の三橋の「橋」につながるよう、食堂は「川のとぎ」と名づけました。

大道●食堂の運営はコストがかかりますが、社員のコミュニケーションの場になるなど、さまざまな効果があります。併せて社会貢献も行っている素晴らしい

界で消費される即席麺、カップ麺は年間約1千億食。その半分が中国で生産され、それにタイ、インドネシアが続きます。当社製品の販売先もそれらの国々が中心となります。中国には即席麺の4割、カップ麺の7割を生産する台湾の大手食品会社があります。最先端の設備を採用する」という方針により20数年前から当社の包装関連装置を導入され、私どもの海外展開の要になっていきます。

大道●遠くない将来、世界の即席麺消費量は倍増する試算もあるそうですから、御社の包装関連装置には大きな成長ポテンシャルがありますね。

三橋■そのとおりです。インドネシアでは、小袋の商品を台紙に並べて貼り、店頭



生菓子の個包装や医薬品の効能書封入に用途が広がる「カード投入機」の前で

取り組みですね。最後に、日本のものづくりの現状についてお聞かせください。

三橋■岡山の系列会社、三橋サンブリッジでは半導体や電機関連の生産を担っていますが、リーマンショック以降、仕事がいぶん減った時期もありました。ものづくりを志望する若者が減っているという現状もあります。それでも、私ども中小企業を含む国内製造業の底力をもう一度信じてもらいたいですね。この国のパワーは決して失われてはいません。私たちもその一端を担っていきたいと思っています。大道●ものづくりの力で独立独立の道を歩み、果敢に世界市場へ挑まれる三橋社長のお言葉だけに胸に響きます。本日はありがとうございました。